

CAVOK V 2017年航海日誌 NO2

(5月29日(月) Zakynthos～7月24日(月) Corfu)

松崎義邦氏メール(7月26日)

皆様に

6月に入りイオニア海からアドリア海に向け航海をしました。

丁度良い季節になりました。日中の日差しは強いのですが日陰や朝晩はとても過ごしやすい気温になります。

又エーゲ海はメルテメと云う北からの夏の季節風が強く吹くのですがこちら側は穏やかな風に恵まれています。

ザキントス島で柴崎さんが下船した後三田ヨット倶楽部会長の篠崎さんが乗船して、コルフ島まで岩崎さんと一緒にしました。今から50年以上前の先輩。後輩とのクレタ島からの楽しい航海でした。

コルフ島で岩崎さん、篠崎さんが下船して暫く悦子と二人での航海も楽しみました。

そして今回は1992年まで共産主義かつ鎖国していたと云う欧州で最貧国と云われていたアルバニアにも寄港しました。又モンテネグロでは大リゾートと立派なマリーナがあるのに驚きました。

クロアチアに入ってドブロブニクから娘婿のお父さんが乗船し、その後昔CAVOK3でレースをやっている頃、小笠原レースや沖縄レースと一緒に乗ってくれた当時学生だった村山さんと、35年ぶりに一緒に乗ることが出来ました。

今回は久しぶりに一昼夜の航海を月明かりの下で楽しみました。

コルフ島のすぐ北西にあるエルクーサ島では、今年の春我が家に滞在してくれたサンドロ、フランカさんの別荘兼ホテルがあり長期に亘り大変お世話になりました。又偶然にも昨年シシリーのマレティモ島で隣に居たフランス人夫婦とも再会出来たり、2013年に暫くトルコと一緒にしたジョン、エバ夫婦とも再会出来たり出会いのあった航海でした。

悦子は7月中旬から約2週間ほど一時帰国したので、私はその間コルフ島とエルクーサ島で翼を休めました。

7月下旬には孫が悦子と友人の正田さんと来るのでこれからの航海を楽しみにしております。

これからも安全第一に航海を楽しみたいと思っております。

Corfu 島 Gouvia にて

松崎義邦

2017年 CAVOKV 航海日誌(2)

5月29日(月) Zakynthos 晴れ

今日はレイデイにする。朝9時にメカニックの彼が来た。一緒に船具屋に加圧ポンプを見つげに行く。自分では見つけられないところはかなり専門的な船具屋があり幸いにサイズに合った加圧ポンプを見つけることが出来た。

悦子の体調が悪いので岩崎さんと二人で遅い朝食をいつも行く埠頭のタベルナで取る。

取り付け作業が終わったのは昼過ぎになってしまったが無事修復出来てほっとする。

洗濯物が溜まったので近くの町の Lagnas にあるコインランドリーに持っていく。係員が居てすべてやってくれて20€だった。助かる。

帰りに事件があり、メイン通りを直進中の私の車にわき道から車が出てきて前方サイドに衝突する。幸いけがはなかった。相手方の車もレンタカーで直ぐ誤りに来た。直ぐレンタカー会社に連絡して事故処理を頼む。警察も来て手際よく処置をしてくれた。レンタカー会社は次の車を提供してくれた。素晴らしい対応だった。聞いてみると観光客が多くこの種の事故は良くあるとの事だった。

夕暮れにいつも行く埠頭の先のタベルナで岩崎さんとイワシのグリルをエサに一杯やる。

艇に戻ってから麻婆茄子、切り干し大根、海藻サラダをご飯で頂く。悦子も大分回復したようだ。明日早朝着の篠崎さんを迎えに行くので早めに就寝する。

5月30日(火) Zakynthos 快晴

朝6時に起きて空港まで篠崎さんを迎えに行く。長旅にも拘わらず元気に篠崎さんを迎える。

篠崎さんがザキントス島に来たので、折角なのでトリッパーボートで島巡りを計画した。岩崎さんが一緒に付き合ってくれた。

9:30に出港して16時に帰港した。シップレックビーチはやはり素晴らしかったとの事だった。その後直ぐラガァナスビーチに行く。遠浅で長い海岸線の江の島に似たにぎやかなビーチだ。お店の前のボンボンベットで日光浴をして、篠崎さんは海岸を廻る中国人のマッサージ嬢に足をマッサージしてもらおう。長旅だったので疲労回復なったと思う。

私は泳ぐが水は暖かく綺麗で気持ち良かった。帰りにオリーブ畑を通るがこの島は古いオリーブの木が有名だそうだが、その畑を通る。立派な手入れされたオールド・オリーブ木であった。

艇に戻り埠頭の先にあるシャワーを浴びてからいつもタベルナでカラマリフライとズッキーニボールをエサにしてビールと白ワインを飲む。

夕食は近くのレストランでグreekサラダ、ムール貝のワイン蒸、オクトパスのグリル、カラマリのグリルを白ワインで食べる。

長旅にもめげず篠崎さんは最後まで元気だった。そして艇に戻ったら一瞬のうちに熟睡に入ったようだ。

5月31日(水) Zakynthos~Kefallinia (36NM) 快晴 微風 西8ノット

気持ち良い快晴だ。朝食後08:10にアンカーを揚げる。丁度フェリーと出向が同時になってしまったので先にフェリー行かせるたゆっくり走る。

湖のような海面だが風が無く機走する。お昼前に南西からの良い風が吹き出したのでジェネカーを揚げる。9ノット前後の風で5ノット以上の速度がでた。

ワッチは三人で1時間ずつやっている。

お昼は稲庭の冷やしうどんを頂く。日射の中ビールと冷やしうどんが特別美味しかった。

良い風は2時間ぐらいで終わってしまったので機走に移り15:20にケファロニア港の北埠頭にアンカーを打っての船尾着けをする。VHF CH74 で呼んだらスタッフが出てきてくれたので指示通りの場所に着けた。

久しぶりに熱い日だったので着後のビールは喉を潤した。チャーターヨットが多く来るところで次々入港してきてかなり埠頭はヨットで埋まった。

レンタカーを借りに行く。レンタカー屋さんのおばさんが私の事を覚えていてくれた。

ヨットを繋留してある前のタベルナに行きビールを3人で飲みながらWIFIをする。

夕食はアボガドロ入り野菜サラダ、インゲンのソテーとラムチョップを赤ワインで頂く。

ラムはザッキントスで仕入れた新鮮な生ラムで柔らかく油もほどほどで美味しかった。

6月1日(木) Kefallinia (快晴)

朝レンタカーを借りる。ここではカラークラスの車であったが45€した。

この島には、イオニア海でも最も美しいと言われているミルトス・ビーチがあるのでレンタカーで行く。最初にメリッサニの洞窟に寄る。何とも言えない青の変化を持った青の洞窟だ。透明度も高く海底まで良く見える。おまけにウナギまで見えた。

その後国立公園になっている山岳地に足を延ばす。頂上から見たイオニア海替えになった。

景色の良い海岸線をミルトス・ビーチまでドライブしたかったが、カーナビの指示に従ったら山中を通るルートになってしまった。

お昼も過ぎたのでレストランを探す中々ない。ミルトス・ビーチの手前で何とかお店を見つけ、肉と野菜をザジキで味付けしてピタで包んだギロスを食べる。

食後ミルトス・ビーチに行く。未だシーズン外れのせいかまばらな海水浴客であった。

泳いで浜辺で日光浴をする。

戻ると周りにいたヨットが出て行って新しいヨットが入ってきていた。ここはチャーターヨットが多く寄るところで船団を組んで入ってくるので繋留場所が直ぐ埋まる。これからシーズンに入り繋留が難しくなってくる。港内でアンカーしているヨットも4,5隻いた。

3€で入れるシャワーがあったので浴びる。

夕食は近くのタベルナでグreekサラダ、グリルドシュリンプ、ムサカとヴィールステーキを白と赤ワインで食べる。味も良く、お値段も安く人気のあるお店で15ぐらいあるテーブルがほぼ満席になった。ボトル2本ワインを飲んで65€だった。

コックピットでウイスキーの水割りを飲んで就寝する。

6月2日(金) Kafflinia~Megnishi (28NM) 快晴 微風から西の順風

7時起床でゆっくり朝食を食べてから08:40に舳を解く。ケファロニア島とイタキ島の間湖のようなフラットな海面を機走する。島の間を抜けると西からの順風が吹きだしたのでセーリングに移る。15, 6ノットの風で7ノットで。ヨットシーズンが始まったせいか行き交うヨットが多い。50隻以上の艇を見た。

風が後ろに回ったのでジェネカーを揚げる。今日はセーリングを楽しめた。

Meganishi 等の Spartakhoris にあるレストラン Spila の岸壁にバックでスターン着けしようとする隣りの Free Port と書いたところに誘導してくれ13:40にスターン着けする。レイドラインもあり、有料の電気、水道もある。Spila の岸壁は岸近くが浅くスターン着けではラダーが底についてしまう。

お昼に冷やし中華をビールで頂く。熱い体に冷やし中華とビールが美味しい。

昼食後それぞれ昼寝をしたり散歩したりのんびり過ごす。レストラン1件しかないところだがチャーターボートが多数繫留してきて賑わいがある。

透き通ったターコイズブルーの海に飛び込む。海水温度も冷たくなく気持ち良かった。

レストランのシャワーを浴びた後レストランでいつものグreekサラダ、そしてフライド・サーディン、ミートボール、スパゲティ・ナポリタンをビールの後白、赤ワインで楽しむ。毎日良く飲む。海辺のレストランの雰囲気良く食後もゆっくり過ごしてから艇に戻る。

6月3日(土) Meganisi~Paxos(Lakka)(50NM) 晴れ後快晴 微風

6:30に舳を解く。朝方は寒くセーターにウインドブレーカを着る。今日も静かな海面だ。レフカダ島と本島の間4NMほどある狭い運河を抜けて出口にある陸橋が開くのを待つ。陸橋は毎時0分には開くことになっている。20分ほど早く着いたのでゆっくり走らせて開門を待つ。9時丁度には開いたのでそれに合わせて通過する。この陸橋は回転式であった。

相変わらず風は横からだが微風なので全行程機走になる。

朝方雲が多かったが昼前から快晴になり朝の寒さは嘘みたくで暑くなる。

お昼は茶そばとソーセージとキャベツの炒め物を用意してくれる。久しぶりの茶そばは食欲を誘ってくれた。

錨泊地 Lakka の入り江に入ると既に多数のヨットが投錨していた。ターコイズブルーの

海はきれいだ。アンカリングしているヨットの間を見つけて15:30に投錨する。水深3~4mで底地は白い砂で素晴らしいアンカーレッジだ。



(Lakka の入り江にて、岩崎・篠崎両氏)

悦子は一番に泳ぎアンカーの効きをみてOKサインを出してくれた。

ゴムボートを降ろして上陸する。こぎれいなタベルナが岸壁沿いに並びギリシャの島の典型的な光景だった。

タベルナでビールを飲みながら静かな遅い午後を楽しんだ。

夕食はサラダ、刻みオニオンが乗ったトマト、オレンジソースの鳥カツを白ワインで頂く。

錨泊の時の食事は明るいうちに取りようにしているが夕食が終わってもまだまだ明るかった。

やっと暗くなってきて50艇を超える錨泊している艇の停泊灯が明るく見えるようになってウイスキーを飲みながらおしゃべりをして過ごす。月も大分丸くなってきた。

静かな入り江で眠りにつく。

6月4日(日) Paxos~Corfu(Gouvia) (30NM) 快晴 東~東南10ノット

朝7時起床してからラバーボートで岸に上がり朝食を食べる。目玉焼き2個、こんがり

ベーコン、ブレッドとバターで5€、カプチーノ3€で合計8€高い朝食になった。

艇に戻りラバーボートをスピンハリヤードでデッキに上げてからアンカーを揚げる。

ここのところ北か西の風が多いが今日は東から南東の風になり出港ご30分してジェネカーを揚げられた。行き交う艇が多くなる。お昼前に風が弱まったのでジェネカーを降ろし暫く機走する。お昼にペペロンチーノの風のポモドーロを頂く。追手で風も感じないので暑く冷えたビールが喉を潤す。

食後風が再び出てきたのでジェネカーを揚げる。風が真後ろに回った為ジャイブを何回かしてコースを保つ。

電話で Gouvia Marina に電話すると予定した5日間は無理との返事だったがとりあえず予約する。

赤と緑のブイで仕切られた航路を通りマリーナに近づく。マリーナの入り口にあるスタンドに15:40に横着けて軽油補給する。43L入るが機帆走したせいか消費量は少なく1時間当たり2Lの消費であった。

ついでにオフィスのアネックスに寄り繫留場所をボートで案内してもらう。

8日からレガッタがあり艇が集まるので8日木曜日朝までの繫留ならOKとの事だった。生憎と8日午後から強風予報なのでマリーナに居たいのだがとりあえず仕方なしと云うことで諦める。

ここのところ急激に暑くなりビールが増々美味しくなる。マリーナのバーで生ビールを頼むと店の人が昨年来た私の事を覚えていてくれた。

のんびり私はマリーナのプールで体を冷やしてからシャワーを浴びる。

皆さんシャワーを浴びた後エビのアヒージョ、生ハムとメロンを食べながらレモンたっぷりのジントニックを、その後に白ワインを楽しむ。

夕食はマリーナにあるタベルーナでグreekサラダ、グリルドチーズ、ヒレスターキ、ギリシャのトラディショナル料理のラムのキャセロールをギリシャ産赤ワインで食べる。ラムのキャセロールは大変美味しかった。

6月5日(月) Corfu 快晴

レンタカーを9時に予約しておいたので皆でマリーナ内にあるレンタカー屋に行く。私の顔を覚えていてくれた。髭で且つ日本人と云うことで覚えられやすい。

最初に世界遺産である旧市街地に行き、駐車場に車を置いて海に突き出ている旧要塞に登る。6世紀から歴史ある地でビザンチン帝国(東ローマ帝国)が要塞の建設に着手して12世紀から18世紀かけてヴェネチア人が完成させた。1716年にオスマン帝国の攻撃を受けたが防いでいる。その後ナポレオン軍の手に落ちフランス領になり、1815年にはイギリス保護領に、1923年にはイタリアに占拠され第二次世界大戦でギリシャが奪回したというヨーロッパならではの凄まじい歴史を持つ島だ。

要塞からは360度一望に見え旧市街地の全景が良く見えた。



(コルフ島旧要塞にて)

暑いので要塞の中にある店で冷たいものをとる。

お昼は旧市街地に行き昨年リサと一緒にいったレストラン“REX”に行く。温野菜と生野菜のグreek風サラダ、フライドカラマリ、スパゲティ・マリーナ、エビの入ったコルフ風リゾットを皆さんはビール、私は運転手なのでスパークリングウォーターにする。

新鮮なイカ、エビは勿論の事、味付けも素晴らしく大変美味しかった。

食後アヒリオン宮殿に行く。私は2度ほどここにきているので外のコーヒーショップで待つことにした。

マリーナに戻ってからプールで軽く泳ぎシャワーを浴びる。

夕食の前にビールで喉を潤おしてから、マッシュルームとムール貝のアヒージョで白ワインを楽しむ。夕食はポークカレーを頂く。

風が心地よく気持ち良いコックピットでの食事だった。

6月6日(火) Corfu 快晴

朝チャンドラーに寄ってアルバニアの国旗を購入。出入国についてマリーナオフィスで尋ねるがパスポートコントロールで聞いてくれとの事で情報は得られず。

今日は車でコルフ島の北側の海岸線とコルフ島で一番高い山パントクラトル山に行く。

パントクラトル山からは対岸のアルバニアが海峡を挟んで直ぐ眼下に見下ろす感じで見えた。又西側にはエトローニ島やエリコウサ島の島々も見え雄大な景色であった。

山頂のお店でコーヒーを飲みながら景色を楽しむ。

その後島の北西にあるシダリの海水浴場に行きタベルナのビーチパラソルの下でギロスとクラブサンドイッチをお昼に食べる。遠浅で50m沖合に行っても腰まで浸からない。泳げるところに行くまでに大分沖に出なければならなかったきれいな水だった。

海岸線をドライブして帰るが狭い道でセンターラインもなく走りづらかったがところどころバカンス村があったり海峡を隔ててアルバニアの山々が見えたりして景色は良かった。

ランドリーをマリーナ内に見つけたので洗濯物を出す。プールで泳ぎシャワーを浴びる。

明日岩崎さんと篠崎さんが離船してアテネに向かうので今晚が最後の晩餐会になる。岩崎さんが皆さんにご馳走してくれることになった。

岩崎さんは最初から乗船して頂き先輩にも拘わらず色々と気を使って頂き、又毎日美味しいお酒をご一緒させて頂き楽しい時間を過ごさせて頂いた。

篠崎さんは10日弱の短い期間であったが手助けをしてくれ、又岩崎さん同様毎日お酒をご一緒した。

夕食はマリーナ内にある先日行って美味しかったレストラン“ARGO”に行く。

クレタ風サラダ、ブラウンカクテル、ムール貝で白ワインを頂いた後、先日食べて美味しかったラムのキャセロールとヒレスステーキを赤ワインで頂く。白、赤ワインで3本ボトルを空けた。いずれもドライで料理に合い良いワインだった。

ここの料理は新鮮で美味しく特にラムのキャセロールは一品だった。

食事が終わったのは10時過ぎだった。艇に戻り軽くナイトキャップをして就寝する。

6月7日(水) Corfu 快晴

今日は

岩崎さんと篠崎さんがアテネ経由で帰国する日だ。一緒での最後の朝食をみそ汁とご飯にほぐし鮭、雑魚山椒、ノリそして残りのカレーで頂く。

9時に呼んだタクシーが来て見送る。岩崎さんは先輩にも拘わらず毎日欠かさずお皿洗いをして頂いた。奥様からの厳命だったそうだ。篠崎さんも色々手伝ってもらい助かった。

4人で毎日楽しい日を過ごせた。来た時の荷物はお土産の食料品で重たかったが帰る時はお土産を入れても大分軽くなっていた。

布団を干したりシーツを洗濯に出したりした後、午前中にこれからの航海の予定について天気予報を見ながら作戦を練る。最初の問題は明日から120隻以上の艇がレガッタの為マリーナに入港するため明日の朝までしかこのマリーナに居られないことだ。そして明日の午後は北風が30ノットぐらい予報なので次の目的地の Erikoussa 島のは行けない。明日朝もう一度バースの空きを確認して空きがない時は湾内の錨泊地に錨泊することにした。

Erikoussa 島にいるイタリア人夫妻の友人に Erikoussa 島での風の強い時の繫留について確認していたが連絡が入り島の錨泊地は北風には強いと教えてもらう。又建設中のマリナーがあり、そこにも入れるとの事で安心した。

そんな訳で明日まではココルフ島グービアにいて明後日ないし明々後日に Erikoussa 島に行くことにした。そして13日になると北風から南風が変わる予報なので追手になる南風を待ってクロアチアに向かうことにした。日程が大分遅れてしまうので途中150NM一昼夜の航海を入れることにした。

お昼にカレーうどんをビールで頂いた後、ギリシャからモンテネグロに渡るのでマリナーにあるポートポリスで艇の出国手続きをしてからタクシーで本港のイミグレーションに行き出国のスタンプを押してもらう。90日間滞在できるシェンゲン協定について注意喚起される。

お天気とにらめっこで行程を考えているがクロアチアまでの予定がほぼ出来たのでほっとする。

昨日晚餐会をしたレストランに WIFI を使いに行きコーヒーを頼むと、後から昨晚いた店員が来て今日のコーヒーは私からのサービスですとご馳走してくれた。岩崎さんのおごりの昨晚の晚餐会が効いたようだ。

何時もの様にプールに入り体を冷やしてからシャワーを浴びて悦子とコックピットでジントニックを飲みながら夕暮れを楽しむ。

夕食は皆さんと美味しいものを毎日食べていたので胃を休める意味と残り物の整理も含めて朝と同じのメニューに柴崎さんの差し入れのイワシの甘露煮で頂く。

このマリナーは町から離れているので夜になるとことりとも音が聞こえず静かだ。

今まで4人だったのが2人になり一層静寂さを感じた。

6月8日(木) Corfu 快晴 午後一時強風

イタリアのブリンディシ (Brindisi) からコルフ島グービア (Gouvia) までのヨットレガッタがあり到着艇が入港するという事だ。その為1200隻以上繫留場所があるここグービアマリナーでも繫留場所が不足するという事で今朝までの繫留期限であったが今日、明日と風が強くと吹くのでオフィスにもう一泊出来ないか聞きに行く。幸いにもう一泊 OK との事でホットする。

午前中悦子とデッキの水洗いと艇内の清掃をする。お昼に冷やし中華が食べたくなり作ってもらう。

午前中の疲れもあり、昼食後心地よい風にあたりながらコックピットで午睡をした。

久しぶりの自由時間が出来て読みかけだった村上春樹著「騎士団長殺し」の下巻を読む。

村上春樹流の物語の展開で引き込まれて読む。

レガッタに出るた艇が続々入港してくるがどうもクラブレース的なレガッタで最新鋭のレース艇はお目にかかれずクルージングヨットばかりだった。

丁度ガスボンベが空になったので交換しに行く。日本と違い持って行くと空ボンベと交換にガスの詰まったボンベをくれる。支払いはガス代だけになる。とても便利で助かる。

夕方いつも通りプールで泳いでシャワーを浴びてコックピットで一杯やりながら夕食まで過ごす。夕食にチラシ寿司を頂く。日本食は胃に優しい。

明日はグービアの湾内から少し出た **Kommeno** 湾の泊地で錨泊して明後日 **Erikoussa** 島に行くことにした。

夜10時前にやっと真っ暗になったのでキャビンに入り読書をしてから眠りにつく。

6月9日(金) **Corfu~Ormos Kommeno** (1NM) 快晴 午後北風

水を再度給水して朝食後10:00に舳を解く。前に来たのを覚えていてくれて良くしてくれたマリーナのスタッフがさよならを言いに来てくれた。

マリーナは湾内にあるがそのすぐ近くに北風に強い錨泊地があるので其処に移動して錨泊して明日風が治まってから **Erikoussa** 島に行くことにしている。

既に20隻以上の艇が錨泊していた。水深が10m~7m位だが底に海草があり場所によってはアンカーが効かない。5回トライしたがいずれもアンカーが効かずアンカーを揚げると海草がアンカーに沢山ついて揚がってくる。6回目に水深8mのところアンカーを利かすことが出来た。時計を見たら11:35だった。アンカーを決めるのに1時間以上時間を有した。

マリーナ内と違って自然の中、静かで風も心地よく気持ち良い。私も悦子もアンカーリングは好きだ。

早速ビールを飲んだ後、お昼に昨晚のお寿司をお吸い物で頂く。お酢が効いていて美味しい。

食後はコックピットでのお昼寝をむさぼる。極楽だ。

続きの本を読んだりして午後は過ごし、夕方前にひと泳ぎしてシャワーを浴びる。

のんびりと特にすることも無い贅沢な時間を謳歌する。

夕方ガーリックの匂いがしてくる。同時にお腹がグーグ鳴ってくる。夕食の支度を悦子が始めた。今晚の夕食は、トマトソースの鶏の胸肉のソテーとラタトゥユだ。

7時過ぎに夕食を始めるが未だ太陽が西の空からコックピットを照らしている。海にいと太陽を浴び海のミネラルの恩恵を受けるのでお腹も減って毎食美味しい。今日も赤ワインとともに美味しく頂く。食事が終わって8時になってもまだ明るい。9時前になってやっと薄暮が訪れるが静かな入り江の錨泊地は安らぎを与えてくれる。

静寂の中、豊潤な時間を過ごせ幸せだった、

6月10日(土) **Ormos Kommeno~Erikoussa**(28NM) 快晴 微風

朝食後8:00にアンカーを揚げる。今日はコルフ島の北西にある小さな島エリコウサ島に行く。この島は今まで3回訪れた事があり今回で4回目の訪問になる。島には **Sandro**

さんの別荘兼ホテルがあり、**Sandro**さんとパートナーの**Franca**さんは今年の春の初めに日本の我が家に10日ほど遊びに来て京都や富士山と一緒に旅行したり東京を案内したりして過ごした。

イタリアの**Brindisi**からの100隻以上参加のレガッタが終わりイタリアに戻る艇もあるせいか多数の艇が沖合を走っていた。

到着前にと早めのお昼を狐蕎麦で頂く。

風もなく機走で12:40にエリコウサ島の南側の**Sandro**の家の前の海水浴場のある入り江にアンカーを打つ。既に10艇ほどの艇がアンカリングしていた。砂地で海草も少なく昨日と違い1回で5mの深さの砂地にアンカーを効かした。水がクリスタルウオターで悦子は早速泳いでアンカーの食い込み具合を見に行く。OKサインを受ける。

ラバーボートを降ろして早速**Sandro**に挨拶に行くが彼は隣の島に高速ラバーボートで出かけていた。パートナーの**Franca**が居て再会をハグで祝す。夕食にお邪魔する約束をする。

艇に戻って泳いだりしていたら**Sandro**が仲間と一緒にラバーボートで戻ってきて艇に挨拶に来てくれる。

夕食は20:30との事、こちらの夕食は遅い。夏時間のせいもある。20時前にラバーボートで先ほどは砂浜から上陸したが今回は小さな港の埠頭に着ける。港は大掛かりな工事中で完成したらマリーナになるそうだ。彼の艇は毎年シーズンにはここに繋留しているが、今年はこの工事の為コルフ島**Gouvia**に繋留してある。

夕食に伺うと、彼の家の大きなテラスには4つほどの大きなテーブルが用意されていた。

Sandroのお嬢さんがミラノから来ていて彼女を入れて5人でテーブルを囲む。その他のテーブルはホテルのお客さんと隣のテーブルにはこの島に別荘を持っているフランス人夫婦が居た。フランス人の奥さんは日本に興味が大変あるようで友達の日本旅行の写真を見せながら日本のお話をした。

お料理はシャンペンから始まり、玉ねぎの上にチポロのシャーベットをかけた前菜から始まり、スズキのマリネ、イカスマイ Pasta にロブスター。その後は昨日手に入れたというマグロのたたきを白ワインで頂く。シェフを紹介してくれたが未だ若い女性で素敵な料理人だった。**Sandro**と**Franca**は日本料理が好きで日本でも毎食日本食を食べた。一度日本のイタリア料理を食べさせたかったが日本食が良いと断られてしまった。話のついでに明日私が厨房に入り天ぷらを揚げることになった。シェフのアンナマリアも日本食が好きで勉強しているそうだ。

最後にデザートワインとジンジャーアイスクリームを頂いた。

今までのギリシャ料理とは違って味付けが細やかで味わいがあり大変美味しく頂いた。

時計を見ると23時過ぎていたので艇に戻る。



(サンドロ邸にて)

6月11日(日) Erikoussa 午前中快晴、夕方雷雨

朝食を Sandro に誘って頂いていたので、9時に浜にあがる。カプチーノ、オレンジジュース、ヨーグルトとゆで卵をご馳走になる。

シェフのアンナマリアと夕食の打ち合わせをした。Sandro が手に入れたマグロがあるということで悦子はお寿司を作ることにした。アンナマリアは若い女性だが料理のセンスが良く昨日のお料理も申し分なかった。そして日本食に興味が大変あるということで今夜は日本料理の作り方を勉強したいとの事だった。

お昼に艇に戻り海水浴してから日光浴をする。風があり涼しいくらいだった。

のんびり夕方まで艇で過ごしてから18時前に浜に上がる。

天ぷらは、ここにある素材を使った。野菜はオニオン、ズッキーニ、茄子、ニンジン、ピーマンを使う。お魚は新鮮なヒメジを3枚におろす。アンナマリアも上手に3枚におろして手伝った。包丁は Sandro が今年日本に来た時京都で買った“有次”の出刃と刺身包丁を使った。その他冷凍のイカ、エビを使う。

てんぷら粉とごま油は日本からの持参品だったがその他は全てひまわり油含めて現地のものを使う。お米は現地の日本米を使い、日本から持参した寿司の子、のり、胡麻、わさびと現地で獲れたマグロを使い鉄火巻、軍艦巻き、そしてスズキの握りを作る。

シェフも一所懸命悦子のやっているのを見ながら真似をして作る。とってもセンスの良い子でキーポイントを掴んでいた。



(サンドロ邸、厨房にて、悦子、日本料理披露)

天ぷらはオニオンを最初に上げたが白ワインとぴったりだ。次にヒメジを揚げる。身が新鮮でその身が天ぷらで一層うまみを増し大好評でのスタートだった。途中からシェフに揚げるのを交代した。

テーブルは一つにして Sandro、Franca、Sandro の娘、ホテルのお客さん2名と我々7名の食事であった。

メインはお寿司で Sandro のお嬢さんは日本に来たこともないのに日本語で鉄火巻、軍艦巻きを知っていた。彼女はミラノ在中でお寿司が大好きで良く食べに行くそうだ。

マグロの絞め方が違うのかマグロ自体の味は日本とは少し違ったがこれまた大好評だった。最後にシェフがジンジャー、スパイシーベース、レモン味の3種類のソルベとアーモンドとチョコレートの小麦粉を使わないケーキを出してくれた。

明日早朝にアルバニアに向け出港する予定なので7月に戻ったときに再会することを約して艇に戻る。素敵な人たちとの夕食だった。

6月12日(月) Erikoussa~Vlore (50NM) 快晴 微風

朝06:50にアンカーを揚げる。しっかり砂地に食い込んでいた。

初めてのアルバニア訪問だ。事前の調査ではアルバニアとイタリアで共運営しているマリーナが Vlore にあるとの事だった。このマリーナでアルバニア入国審査が受けられるか、予約を兼ねて Sandro に昨日確認してもらったところ OK との事で安心した。

風は後方からだったが弱いので機帆走になる。うねりが少し残っていたがアルバニアの山脈を右手に見ながらのんびり航海になる。行き交うヨットもなく Vlore に入る前に一艇すれ違っただけだった。海岸線は20NM以上民家すら見つけられなかった。

Vlore の湾に入るとうねりも収まったのでサンドイッチのお昼をスープで頂く。入港前なのでビールは控える。

パイロットブックには湾の入り口から戦争の遺物の機雷原があるのでということで航路がかなり狭く規制されているので注意深く進む。

湾の入り口から9NM入ったところに Marina di Orikum がある。マリーナの入り口が狭く浅いところをブイで仕切って航路を作っている。

CH15 で呼んでも応答がないのでそのまま入港するとスタッフが出てきて指示してくれポンツーンにスターン着けする。レイドラインも水、電気、トイレ、シャワーがあった。

警察が来てパスポートを調べる。スタッフは親切で色々説明してくれ事務所で手続きをする。入国審査はエージェントがやってくれパスポートを渡して彼らが出入国管理事務所に出向いて手続きをしてくれた。80€の手数料だった。パスポートを見ると入国のスタンプが押してない。聞くとパソコンで管理しているので出入国のスタンプはいらないとの事だったが初めての経験となった。

レストランを聞くと近くにある“Restorant Spiranica Tiku & Mato”がシーフードで美味しいとの事そこに行くことにした。

シャワーを浴びた後歩いて行く。浜辺の前の感じの良い近代的なレストランだ。100人ほどは入れる大きさだが一組だけのお客さんだった。

このシーフードレストランが最高で、新鮮な野菜サラダ、新鮮で身がプリプリのムール貝のワイン蒸、生エビのオイル仕立て、スパゲッティポモドーロ、これまたトマト味が絶品でアルデンテ仕上げだった。すべてが素晴らしい味で大満足だった。そして白ワイン、食後にエスプレッソ飲んで二人で25€ 信じられない値段でびっくりでした。

この辺りは何も無いところで作りかけのアパートがあつたりするが田舎道で街灯も少なく歩道がなく車道の脇を歩くので前から来る車が来ると脇に避けながら帰った。

リゾート開発途中だが進行は遅い感じがした。

6月13日(火) Vlore (Marina di Orikum) 快晴

アルバニアはこの地域の他国と同じようにローマ帝国、オスマン帝国の支配下に置かれ1912年に独立した国だ。ソ連、中国と接近した共産国だったがソ連、中国とも断交して鎖国政策をとりアルバニアの情報は世界から途絶した。東欧の民主化の流れの影響で1

992年に共産党から民主化され鎖国政策から脱皮して開放政策をとるようになった。しかしその後、国全体でねずみ講が蔓延して経済破綻して欧州の最貧国と云われていた。人口300万人の小さな国だ。現在は欧州の援助を受けながらイタリアとの関係を深めて再建中だ。

一日だけの滞在で出港して62NM先のDurresに行く予定だったが風が向かい風なので明日の出港に変更した。

朝食後色々溜まった仕事の整理をする。昨日遅く入港したイギリス艇が同じ方向に行くとの事で次の目的地について話す。彼らは30NM先の入り江で錨泊を予定しているようだが地図を見たところ外洋に面しているしパイロットブックにも錨泊地として書いてないので少し不安なので港のあるDurresを目指すことにした。

お昼にざるそばを頂いた後ビーチに泳ぎに行くがあまりきれいな海水でないのでビーチベッドで横になり泳がず海風にあたる。

隣のビーチベッドにDurresから来たスイス艇の親子がいたのでDurresの様子を聞いた。商業用の大きな港でヨット用の施設はないが問題ないそうだ。

昨晚行ったレストランが美味しかったのでイギリス艇の夫婦を誘って一緒に行くことにした。

ここで失敗をした。約束の時間20時になってもイギリス艇の方は出かける準備をしないようだったので30分程待ったが未だ出てくる気配がないので、行きましょうかと主人に声を掛けた。彼は中にいる奥さんに今から行くよと云うような声かけをしていた。

イギリス人なので約束に大幅に遅れることはないと思っていたのでどうしたのかなと疑問だった。

イギリス人のPeterが後から入ってきたイギリス艇に声を掛けて6人での夕食になった。

食事の時に時間の話になり、その時私はギリシャとアルバニアの間に1時間の時差があるのが分かった。彼らが正しくて我々が間違っていた。彼らにその話をして早く誘ってごめんなさいと云ったら、彼らから良く30分も待っていたねと言われてしまった。

皆さん初めてここで会ったわけだがとっても気が合い楽しい夕食会だった。

我々が昨晚このレストランに来たということで注文を任された。みなさんシーフードがお好きということで安心した。昨晚頼んだミックスサラダ、ムール貝のワイン蒸、それとグリルドブロン、シーフードスパゲッティを其々2人前ずつと白ワインを頼む。皆さんでシェアした。やはり新鮮で美味しく大変好評で喜んでくれた。お勘定は全部で75€。ワインボトル2本入れての値段だ。これまた皆さん驚いてニコニコであった。

Durresから来たイギリス人にはDurresの情報を聞いて参考になった。

6月14日(水) Vlore~Durres (62NM) 快晴 微風後西北西7~9ノット

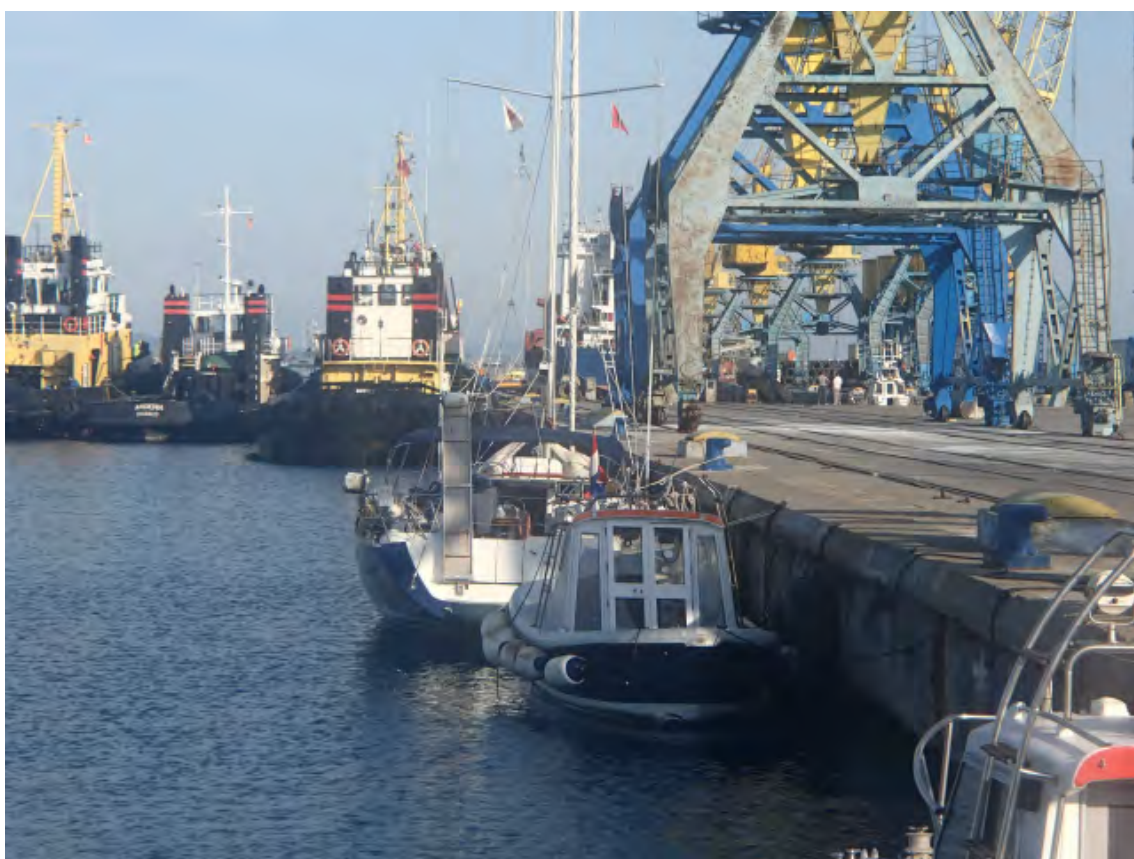
1時間間違えていたのでギリシャ時間で6時出港予定していたのでこちら時間の5時に出港することにした。

5 : 10 に舳を解き静かな海面に出る。この辺りは機雷原があり制限区域がチャートに示されているがハーバーマスターに聞くとまったく問題が無いとの事、昨日の心配が何だったのかなと思う。他の艇を制限区域に関係なく通っている所以我々も無視していくことにした。

4 時間ほど機帆走したのちクローズドリーチの西からの風が 7 ~ 9 ノット吹き出し帆走に移る。5 ノット前後で静かな海面を滑るように走る。ヨットの素晴らしいところだ。

5 時間ほど帆走を楽しんだ後 Durres が近づき大型船の航路に入ったので機走にする。

ここは商業港でマリナーでない。昨日教わったところにはヨットは 1 艇も繫留していない。その場所近づくと埠頭から手を振ってくれる人がいたので指示に従い埠頭に横着ける。



(アルバニア Durres 港にて)

埠頭に着ける際、船首の右の航海灯をぶつけて壊してしまう。ほっとした油断がミスを招いた。

場所を指示してくれた人は SHIPPING AGENT の人で艇に乗り込んで書類を作成して入港手続きの代行をしてくれた。Vlore でアルバニア内では今後繫留料だけで良いと言われたが AGENT に 40€, ここでの繫留料 1 日 20€ これは一晩でなく 0 時から 24 時までの一日で一晩泊まると二日になり 40€, 合計 80€ 支払う。

早速街に出てみるがきれいな街でイタリアンレストランが多かった。

マリーナの近くの海辺のレストランで夕食をとる。早かったせいかお客さんは後から来た2名と我々だけだった。

レストランでは、喉が大変乾いていたのでビールをグイと飲んだ後、ミックスサラダ、各種魚のカルパッチョ、ヒメジのグリルそしてピザ・マルガリータを白ワインで食べる。アルバニア同様美味しく食べた。

港には大きなクレーンが並んで、大型トラックが走っている。その中を二人で戻り1艇だけ繫留してある CAVOK5 で休む。

6月15日(木) Durres~Bar(55NM) 曇り、南微風後北西順風

朝起きてインターネットでお天気を調べるため近くのコーヒーショップに行く。戻ると約束通り7時にエージェントが出国のための書類を届けてくれる。我々の後ろにイタリア艇が入っていた。

07:15に舳を解く。静かな海面で朝食をとる。後ろからの風だったが弱いので機帆走する。風の予報は午後1時過ぎから向かい風の北風になるとの事だったので、それ迄に距離を稼ぐため7ノット近い速度を維持する。徐々に西風になりエンジンの回転を落としても7ノットをキープするようになる。

お昼にラーメンを頂いた後徐々に向かい風の北になり最終的にはセールを降ろした。

16:00に Bar の商業港内にあるモンテネグロの入国管理事務所の前に舳う。先ずここで一時繫留料として25€支払う。そしてハーバースターのところに行き、艇の入国に関する手続きをする。ここでも90€取られる。その後警察に行き、我々の入国の手続きをする。トータルで1時間以上の時間をとられる。

他の国では言われたことはないがこのモンテネグロだけ船舶の運転免許書を必要とする。小型船舶の免許書を見せてOKになる。

その後艇を隣にある AD marine に移す。繫留料75€だ。ホットしていると我々のポイントの前にトルコのガレット船がお客さんを載せて着いた。貸し切りクルージングのようだ。船籍がマリマリスと書いてあるので聞いたら秋までここで仕事をするとの事だった。

シャワーを浴びてからインターネットでお天気を調べる。

夕食に五目すしを頂く。連日長い距離を航海しているので少し疲れ気味だったので艇で食べるお寿司は体に優しく助かった。

一昼夜の航海が厳しいのでモンテネグロに寄ったが、寄るだけで190€の出費だった。

6月16日(金) Bar~Cavtat~Dubrovnik(62NM) 晴れ、微風

朝出入国を管理する港の警察に出国の手続きをしにマリーナから行くが、艇を Customs berth に移動してからだと言われ、マリーナから Customs berth に移動する。ヨットに対する出国手続きは朝早くは開いていないという事で前日にハーバースターのところに行

き出国手続きしておいた。モンテネグロは旧ユーゴスラビアが解体したときにユーゴスラビアからセルビア・モンテネグロとして独立したが2006年にセルビアと分離してモンテネグロとして独立した国だ。ゆっくり国内を観光したかったが、19日までにドブロブニクに到着しなければならないので諦めての出港した。

出国手続きを終わり、07:10に舳を解く。静かな海面で風も微風だ。南からの追手の風であるのが救われる。全行程機帆走になる。

モンテネグロの意味はこちらの言葉で“黒い山”ということだそうだが、山の斜面が一気に海まで伸びて海岸がない感じだ。その山の斜面の所どころ小さな村が点在していて緑と共に景色が良い。

同じ方向行くヨットが3艇ほどいて併走する。クロアチアに入り表敬国旗をクロアチア国旗に代える。黄色いQ旗はユーロ国籍の艇は揚げなくても良いとパイロットブックに書いてあったので揚げない。

Cavtatの港に入り Customs berthに着けようとするが繋留の余地が無い。仕方なく隣の岸壁にアンカーを船首から降ろして15:50スターン着けする。ここの管理者が舳いをとってくれた。

ここの港は4月から10月迄出入港管理が出来るとの事だったので要領を管理者に聞くと15時までしかハーバーマスターはいないとの事で艇の入国はできない、取りあえず警察に相談に行けということで警察に行くと本港のCruzで手続きをしろと言われる。

仕方なしにここから12NM先にあるCruzに行つて手続きをする。ここでも1か月の航行料として1447クレーネ(約25000円)払う。

手続き終了後ここから2NM湾の奥にあるMarina Dubrovnikに入る。舳つた時は19:40になっていた。

ここは2012年に寄つたところで懐かしい。

クロアチアのマリーナ関係は高いがこのマリーナも高く一晩141€だった。

若干疲れたので、仕事はさておきビールとジントニックで体を休める。夕食は悦子に申し訳ないがカレーライスを作ってもらふことにした。疲れて外で食べる気がしなかった。

即製のカレーライスだったが赤ワインを飲みながら味わいながら美味しく頂く。

シャワーを浴びてから日誌も書かずぐっすり眠りについた。

6月17日(土) Dubrovnik~Cavtat (12NM) 晴れ 東10~25ノット

午前中にマリーナのチャンドラーで先日壊した右側の航海灯を買う。丁度同じサイズがあったので助かる。同じくマリーナ内のスーパーマーケットで食料購入。このマリーナはチャーターボートの大きな基地になっていて数社のチャーターボート会社が並んでいる。土曜日が入れ替えの日で出入りの人が多く大変活気があった。

ここは繋留料が高いのと、空港から近いところに前日寄つたCavtat港があるので20日に来る米谷ペアーにも便利なのよと思ひチャブタット(Cavtat)に移動する。

舫いを11時に解いて、ガステーションに寄り軽油を入れてから出港する。

午後から強い風が吹く予報になっていたが途中から東の風が強くなり一時30ノット迄上がる。ドブロクニクを海から眺めながらチャブタットに向かう。



(海からのドブロクニク)

14:00に港の岸壁にアンカーを船首から打って船尾着けをする。

いっぱいかと心配していたが繫留場所に余裕がありほっとした。

繫留料は一日290クーネ(約5000円)そして別個に水道、電気を使うと更に280クーネ、法外な料金に驚く。水道、電気は最初の日と最後の日だけにすることにする。

お昼に今朝購入した鳥の丸焼きをご馳走になる。この鳥の丸焼きは美味しく結構便利な食材だ。

食後艇の水洗いと衣類の洗濯をする。航海灯の取り付けをするが結構導線が短かったりして手こずるが何とか取り付けた。

港は観光客で賑わっている。

夕食は繫留した真ん前にあるレストランで久しぶりにお肉という事でビーフステーキとラムステーキを食べるが残念な味だった。

艇のシャワーを浴びて寝る。

6月18日（日）Cavtat 晴れ 北風



（チャブタット）

気持ち良い朝だ。デッキで朝食を頂く。これからの行程計画について練り直す。

“うめぼし”の増田さんからメールが入り長距離懇談会の事務局長をしている大野さんがグループで艇を日曜からチャーターして乗るとの連絡を頂く。先日繫留した Marina Dubrovnik からだそうだ。早速大野さんと連絡を取ってみると今日からだそうだ。フロテリアルでチャート会社が船団を組んで1週間の行程でクロアチアを航海する。行程表を添付してくれたのでこちらも参考にする。

チャブタットの岸壁は艇の出入りが多い。午前中各艇出港して行くので、暫く繫留場所が空くのだが午後遅くなるといっぱいになる。今日も両隣の艇が入れ替わった。

お昼にお吸い物でチャーハンを頂く。

午後はのんびり過ごし、海水浴を久しぶりにする。きれいな海だ。

艇に戻ってからシャワーを浴びて、本を読みながら一杯始める。夕暮れ時の至福な時間だ。おつまみはペッコリーノチーズ、ダルマチア産生ハム、ネクタリン、チェリーそれとピー

ナッツだ。ビールの後白ワインで頂く。連日飲みすぎのようだ。

夕食はラタトーユに鶏の丸焼きの残りを頂く。前菜でお腹がいっぱいになっていた。

今日は電気、水道代を約4000円払うのは市場経済に反すると思うので使わない。
静かな夜を過ごす。

6月19日（月）Cavtat（晴れ）

いつものようにコーヒーで朝を迎える。朝食はいつものようにバナナに蜂蜜をかけたヨーグルトそして今日はパンでなく残りのご飯で作ったお握り、フルーツはブドウとサクランボを頂く。昨日露店で購入した蜂蜜は黒糖の様の甘さがあり美味しい、ブドウは甘みが強い。

明日から米谷夫妻が来るので部屋の清掃をする。

お昼にラタトユと鶏肉を頂く。いずれも残り物であるが美味しい。

午後はパッセラーレと言われている艇と岸との渡しの梯子の吊り下げ用のロープを替える。

特にすることのない一日だ。相変わらず艇の出入りが多い。殆どがチャーターボートだ。高齢の男同士5～6人ぐらいで乗っているチャーターボートが多かった。

何時もの様に泳ぐ。海水浴場に2クーネ（約50円）入れると30秒使えるシャワーがあったので1分間浴びる。これが今日の入浴となる。

夕食はギリシャでも有名な、トルコ料理のムサカを頂く。ムサカは茄子とひき肉とジャガイモの煮込みだが、粗びきのひき肉の味が全体を際立たせる。

赤ワインをいささか飲みすぎぐっすりと眠りにつく。

6月20日（火）Cavtat 快晴 微風

今日は娘婿の父の米谷さんが来る日だ。ここから空港は近いのでタクシーで来てもらった。予定通り到着する。

長旅でお疲れにも拘わらず米谷さん、リカさんはお元気で安心する。

お昼に昨晚のムサカを頂いてから、水上タクシーでドブロクニクの旧市街地に行く。約4NMだ。

流石ドブロクニク、観光客で溢れていた。城塞の城壁を歩くが旧市街の街並みと海の景色が素晴らしい。

日射が強い。一休みしてアイスクリームを食べた後。ケーブルカーで市街地を鳥瞰図の様に見える丘の上に上がる。ここからの眺望も素晴らしい。市街地の中は迷路のように狭い道が張り巡らされている。そしてオレンジ色に統一された屋根が絵になる。

ドブロクニクはこの地域の歴史と一緒にギリシャの植民地からローマ帝国、東ローマ帝国、そしてオスマントルコの支配下に入りながら交易で栄えた。

悲劇はユーゴスラビアの崩壊から始まっている。クロアチアは独立したが、セルビア人とクロアチア人の対立が激しくなりドブロクニクも包囲され砲撃を受けた。一時危機的な世界遺産と云われるほどダメージを受けたが今は立派に再生されている。

水上タクシーで戻ってちょっと理不尽であるが一日280クーナ、約5000円の電気水道料を使うことにした。明日から錨泊が多くなるからだ。」

毎日泳ぐ様にしているので今日も泳いで30秒2クーナのシャワー浴びる。

夕方蒸エビをおつまみにビールとワインを飲みながらゆっくりする。

夕食はこの港の管理者に聞いたおいたシーフードレストランに行くが、ムール貝は身がやせてカラマリフライも鮮度が無く、唯一スズキのグリルだけ美味しかった。

未だムール貝は時期が早かったかもしれない。

6月21日(水) Cavtat~Mljet(Polace)(38NM) 快晴 微風

チャターヨットの会社のサンセルの行程表にドブクニクから1週間のフロテアル(会社の案内艇がチャター艇の集団を案内する)のコースが書いてあったのでそれを参考にMljet島の北になるPolaceに行くことにする。

朝食をゆっくり取った後09:10に舳いを解く。

湖水のような海面を弱い南からの微風を後ろから受けながら機走で北の進路をとる。

一時的にお昼に南からの10ノット程度の風が吹き帆走するが1時間持たなかった。

東西に長いムリエト(Mljet)島に沿ってポラッチャ(Polace)の入り江に入る。既に多数の艇が錨泊ないしレストランの栈橋に繋留している。レストラン栈橋に沿って空いている栈橋を探すとレストランの店員が呼び込みをしていたので其処に16:10に船尾着けする。

このムリエト島は紀元前4世紀からの歴史があり、ホメロスの「オデュッセイア」で主人公オデュッセウスがニンフ・カリュプソに誘惑されて故郷への旅たちの内7年間を過ごした島と云われている。



(ムリエト島ポラチェの入り江)

深い緑に包まれた島の北西側は国立公園になっている。

我々の舫ったレストラン“Carypso”で奥さんたちはお茶をして、米谷さんと私は海水浴に行く。

艇でシャワーを浴びてから夕暮れ前の一杯を皆さんで楽しむ。

夕食は Carypso で食べる。とっても感じの良い素敵なウエートレスさんが注文を取ってくれた。

ミックスサラダ、ダルマチアン地方の生ハム、チーズとタコのサラダ、アンティチョークの入ったプレート、そしてイカスミリゾットをアピタイザーにして白ワインを飲む。

メインにオラーダ（鯛の一種）そしてラムチョップを赤ワイン食べる。

先日のチャブタットのレストランと違い新鮮で美味しかった。

12名連れのお客さんが居て、中の一人が日本語で声を掛けてくれた。彼らはユーゴスラビアから来たそうだが、声を掛けてくれた方はドイツ人だそうで柔道3段との事だった。

他国でのちょっとした会話が楽しい。

艇の真ん前のレストランでの食事だった。

6月22日（木）Mljet~Korcula（17NM）快晴 微風

コーヒー、ヨーグルト、フレンチフライとブドウの朝食を頂いた後、約2.5km先になる湖のあるムリエト国立公園に8時過ぎに歩いていく。

尾根越えで登り下りがあり行くのに約1時間要した。二つある湖の内大きな方湖の小島に15世紀に建てられたベネディクト修道院が見える。

樹木が多く、我々の繫留してあるボラッチャの入り江も上から綺麗に見えた。

艇に10時に戻り10:35に舫を解く。並んで繫留していた艇は既に出港していた。

静かな海面を機走する。コルチュラ島に入り長距離航海懇談会の事務局長をしている大野さんが仲間とドブクロクニクからチャーターヨットで寄港している予定のLumbardaのマリーナに入る。彼らの借りているチャーター会社のサンセールに聞いてみるとフロテアルのグループはACI Marina Korcula に行っているとの事で直ぐ離岸してMarina Korcula に行く。

コルチュラに入りVHF17チャンネルでマリーナを呼ぶとすぐ返事が返ってきた。返事が無い時は勝手に入っていきスタッフを探して支持を仰ぐ。

14:30に舫う。前のポンツーンに大野さんのグループが居たので挨拶に行く。

1週間のチャーターでカタマランが60万円、モノハルが40万円だそうだ。安いかわからない。

我々はコックピットで一休みした後奥さん達は洗濯とシャワーをしに、米谷さんと私はマリーナの脇にある海水浴場で泳ぐ。水温が大分上がって来て寒さを感じなくなってきた。

我々もシャワーを浴びた後いつものようにジンライムを飲みながらゆっくり過ごす。

お食事は白ワインとダルマチアン生ハムとメロンで始まりトマトのサラダ、インゲンと

マッシュルームのソテー、新鮮なオラーダ（鯛の一種）のグリルを頂く。トマト味は素朴でオラーダは新鮮でとても美味しかった。そして極め付きは豚肉の肩ロースのガーリック醤油味のローストを赤ワインで頂く。絶品の肩ロースの味だった。

食後米谷夫妻は町に買い物に出かける。

6月23日（金）Corcula～Hvar(32NM) 晴れ 微風

朝食後水補給して09:00 舳いを解く。大野さんに艇より別れの挨拶をする。

相変わらず静かな水面で無風だ。機走でコルチェラと本土側の半島間の海峡を抜ける。コルチェラの旧市街地の街並みがきれいに見える。

フェリーやヨット、ボートが多く油断できない。高速フェリーは32, 3ノット出しているので要注意だ。

途中風が吹き出したのでセーリングするが1時間持たなかった。

お昼にビールにラーメンを頂く。

15:10にHvarの岸壁に舳う。ここは水道、電気があるがマリーナでもないのに一晩87€だ。クロアチアの高いのには諦めた。

米谷さんも艇の扱いに慣れてくれ槍着けの時レイドラインを掴んで船首に直ぐ持って行ってくれるので助かる。

一休みした後港を見下ろす城塞に登る。ここからの眺めは素晴らしい。港の全貌とそれを取り囲む建物の赤レンガの屋根そして遠方にはパクレニ諸島が静かな海に浮かんでいた。

帰りに教会でリュウゼツランのしおりを買う。

要塞への行き方を教えてくれた果物市場のおばさんのところにも寄って、試食で食べて美味しかったブドウ、アンズ、ネクタリンを買ったらチェリーをおまけにつけてくれた。

米谷さんと私は泳ぎに行く。ブイで仕切られていて透明度抜群の海で水温も低くなく久しぶりに長時間とは言っても10分少々だったが泳ぐ。

ジンライムで喉を潤おした後、夕食前にファンチェッタとメロンで白ワインを飲み、夕食にチキンカレーを頂く。幸せな時間だ。

悦子と米谷夫妻は食後買い物出かける。私は書類の整理をする。

11時前に皆さん帰還で寝床につく。観光客で夜遅くまで賑わってうるさかった。

6月24日（土）Hvar～Jerolim～Lastovo（30NM）晴れ 微風

朝食を久しぶりに外のコーヒーショップで食べる。

9:10に舳いを解き、目と鼻の先にある0.5NM先のJerolim島に向かいアンカーを打つ。

この島はヌーデイストアイランドになっている。Hvarから水上タクシーで海水浴客が来る。



島には **Nudest Welcome** の看板があり、その下に島の掟が書いてある。掟は省略する。私は 2 回目なので抵抗なく島に上陸してナチュラルの仲間入りをした。他の方は遠慮した。

綺麗な水の中で泳いでから 11:20 にアンカーを揚げて Lastovo 島に向かう。ここから斜め向かいからの弱い風の中静かな海面を機帆走で進む。

Lastovo 島の Lago 湾の奥の Hotel の前の岸壁に 16:40 舫う。ここは 2012 年イタリアか

ら渡ったところでもう一度来たいと思っていたところだ。奥まった湾は完全なシェルターで静かで観光客も少ない。村も小さいのでお店もなく一軒のホテルがあるだけだ。

ホテルのレストランに行きビールで疲れと暑さを吹き飛ばす。

米谷さんもすっかりこのラストボを気に入ってくれた。

デッキを水洗いした後、ビールと白ワインが不足したのでここから 3km 先のフェリー乗り場に自転車を降ろして買いに行く。ビールと白ワインは必需品だ。

何時もの様にシャワーする前に海水浴をする。底まできれいに見える。

カプレーゼでジンライムを楽しんだ後、夕食はリカさん特性のウニのクリームスパゲティと野菜のグリルを頂く。ウニのスパゲティはウニの味が上手に出ていて美味しく頂いた。

昨晚と違って静かな夜だ。

6月25日(日) Lastovo~Lopud (53NM) 晴れ、微風

素晴らしい島だが26日に米谷さんが帰国の途につくので一晩の滞在で離島する。

07:30に舳いを解き小さな島 Lopud に向かう。

穏やかな海だが風が無い。楽しみにお昼は具沢山のラーメンを頂く。

Lopud 島は San Sail のチャーターヨット会社のフロテアルのコースに組み込まれていた
ので寄ってみることにした。島の北側と南側にアンカーレッジがあるので最初北側 Uvala
Lopud を覗いてみるが多数のホテルがあり賑やかな感じだったので南側の Uvala Suji の方
に行く。ここは静かな湾で町らしきものはなかった。湾の奥は海水浴場になっていて沢山
の小さなモーターボートがアンカーリングしていた。水深8mのところアンカーを
打つ。悦子が早速潜りアンカーの状態を見に行く。OKサインが出た。

夕方7時過ぎになると海水浴で来た小さなボートは帰っていった。

レモンのジントニックで夕暮れ時を楽しみ夕食は昨夜の残り物を使ったオムレツとダル
マチア産ソーセージを頂く。

疲れもあって私は一足早く寝床につく。

夜半目を覚ますと近くにいた艇が近づいてきている。他の艇は風に正対しているのだが
この艇だけが風に正対していない。良く見てみると船尾からもアンカーを打っている
ようだ。2m近くまで接近してきたので心配しているとその艇の乗員が起きてきてアンカー
の打ち方の失敗に気づきアンカーを揚げて他の場所に移動した。

6月26日(月) Lopud~Cavtat (12NM) 晴れ

朝、通り雨があった。朝食後09:10にアンカーを揚げる。今日は目と鼻先にあるチャブ
タットに向かう。うねりが多少入りピッチングする。

11:50に1週間前舳ったところにアンカーを船首から打って船尾着けする。

今日は米谷さんとリカさんが帰る日だ。艇のビールがなくなったので艇の前にあるバー
でビールで喉を潤おす。

お昼は隣のレストランでグreekサラダ、ピZZa、小魚のフライを白ワインで食べる。

昼食後米谷さんは買い物に、私は艇の清掃と布団干しをする。今日は風もなく非常に暑
い。

17時前に米谷さんとリカさんはタクシーで空港に向かう。1週間だったが連日移動して
ダルマチアの島々を廻ることが出来た。連日の航海でお疲れの事と思う。

20時過ぎに今度は村山夫妻が到着する。彼とは今から35年ほど前私が外洋レースを盛
んにやっている頃、未だ学生だった彼がクルーで乗ってくれた仲だ。その後会う機会がな
く

その後ひよっとしたきっかけで数年前懐かしく再会した。

35年ぶりの一緒にセーリングになる。奥さんの博子さんも彼が最近手に入れたヨットで
勉強中とのことだ。

ビールと白ワインで艇の上での再会を祝す。

6月27日(火) Cavtat~Mljet(Polace) (53NM) 晴れ 順風

今日から村山夫妻との航海になる。彼らの旅程表は今日から7月1日に離艇する間の5日間しかない。天気予報では28日から南風の強風が吹く。

風の関係で予定が作りづらい。取りあえず強風が吹いても心配にないムリュト島に行くことにした。朝食後買い物をして09:00にアンカーを揚げる。

ドブロクニクの旧市街地を沖から見ながら通過する。風は南からの順風でいきなりジェネカーを揚げる。10~15ノット位の追い風で6ノット弱の速度を維持する。海面も静かで気持ち良い。村山夫妻にとって幸先良いスタートだ。

お昼はスパゲッティポモドーロをビールで頂く。トマトの味が凝縮して美味しかった。途中観音開きにしたりしながら快調なセーリングをした。

16:45に奥まった入り江の中にあるレストラン“Joseph”の棧橋に檣着けする。レイドラインがある。

早速火照った体を泳いで冷やす。シャワーの後いつものジンライムで遅い午後を楽しむ。

夕食はJosephでダルマチアン・アピタイザーとスズキのグリルを食べる。アピタイザーの中にあつたダルマチアン・スモークッド・ハムは大変美味であった。

目の前にCAVOK5を見ながら村山さんと35年前の話をしながら夕暮れ時の素敵なディナーを楽しんだ。

6月28日(水) Mljet (Polace) 晴れ 南強風

今日、明日と強風の予報なので、ここポラッチャで30日まで停泊することにした。

朝食後村山夫妻はフェリーでドブロクニクに一泊旅行に出かける。レストランの主人がフェリー乗り場まで送ってくれた。

強風にも拘らずかなりの艇が出港していった。特にチャターヨットは日程制限があるので大概の風では彼らは出航していく。

私はビルジ(船底に溜まる水)があるのでどこからか床板をはずして調べる。海水だったので心配していたがキールの取り付け部分はしっかりして漏れもないので安心した。隔壁の中に溜まっていた海水が揺れで出てきたようだ。

お昼にラーメンを頂いた後、読みかけの本を読んだりしてのんびり過ごす。

夕方いつもの様に暑い体を海水浴で冷やす。

夕食は前のレストランでグreekサラダ、ダルマチアン・スモークッドハムとラムチョップを食べるがハム、ラムとも美味しかった。ラムは今までのラムとは違ってビーフのようなテクスチャーであった。



(アドリア海の夕日)

6月29日(木) Mljet (Polace) 快晴 強風

今日ものんびり過ごす。PCで日記を書こうとすると上手く作動しない。色々やってみても作動しないのでDell社に電話するが案内は“この問題の解決には時間外なので明日に”
と
いう事で諦める。

午後バイクを借りて島を廻ってみる。別の湾のPomenaに行ってみるとポラッチャより賑やかな雰囲気だった。但しポラッチャの方が錨泊地としては優れている。

夕方6時過ぎに村山夫妻が戻る。ドブロブニクの話聞きながら一杯飲む。

夕食は3日目の棧橋レストランで食べる。村山夫妻にラムチョップを薦める。その他に
シ

ーフード・スパゲタイー、イカスミリゾットを食べるがいずれも満足する味だった。

艇内でおしゃべりした後12時前に就寝する。

6月30日(金) Mljet~Korucula (17NM) 快晴 南7~15ノット

朝起きると既に村山夫妻はムリエト国立公園にハイキングに出かけていた。9時過ぎには戻ってきた。この国立公園は緑に囲まれた中々良いハイキングコースでハイライトは湖だ。約8KM歩いたそうだ。二人とも暑さの中結構歩いたのでオーバーヒート状態で早速海に飛び

込んで体を冷やす。

10:25に3泊したポラッチャの棧橋の舫いを解く。未だうねりが若干あったが当初風が真追ってから14, 5ノットある。5, 6ノットの速度でジャイブをしながら帆走する。

コルチュラ (Korcula) 島の島々の間に入るとうねりも収まり静かな帆走になる。コルチュラのマリーナに入る前に隣の湾 Luka に寄り13:50にアンカーを打ち、遅いお昼にスパゲッティ・ノルマを頂く。

泳いだりして約2時間弱アンカーリングした後15:40に Korucula ACI marina に舫う。

コルチュラはマルコポーロの生誕地 (他にもあるそうだが) という事で生家も見学できる。

城壁に囲まれた中世の時代の美しい町だ。クロアチア本土の半島の山々が海峡を挟んだ反対側に見え、丘の方からの眺めは素晴らしいので案内する。その後明日、村山夫妻はドブロクニク迄フェリーで行って帰国するので町の見学がてらフェリーの切符を買う。

今晚は村山夫妻の最後の晩餐会になる。野菜サラダ、胡麻だれがけイチジク、ダルマチアン・ハム、チーズ、オレンジソースのチキンカツを白、赤ワインで頂く。

五日間の短い期間で2日ほど強風のため出港出来ない日があったがそれなりに村山夫妻も楽しんでくれたようでほっとする。

村山さんとは35年ぶりに一緒にヨットに乗ったことになる。奥さんの博子さんも慣れない艇生活であったが色々手伝って頂き感謝だ。

夜船内が暑くコクピットに出ると村山さんもコクピットで寝ていた。夜半の小雨があり室内に戻って寝る。

7月1日 (土) Korcula~Korcula(Luka) (1NM) 曇り、順風

朝10:30のフェリーで村山夫妻はドブロクニクに向かった。

私はPCの調子が悪いのであれこれやってみたがメインに使っているPCのインターネットが使えない。幸い Word と Excel は復元できた。

13:00に舫いを解き隣の格好の錨泊地 Luka に移動することにする。途中ガステーションによって軽油を給油する。今回回転数を落として使ったので燃料消費率は1時間当たり2.3リッターの消費であった。

2艇ほど錨泊していた。水深7mのところアンカーを14:00に打つ。泳いでみるとしつかりアンカーが底地に食い込んでいた。

お昼に胡麻汁でお蕎麦を頂く。博子さんが持ってきてくれた胡麻がとっても美味しくしてくれる。

のんびり午後を過ごして夕方にラバーボートを降ろして陸に上がり WIFI でお天気を調べる。明日の午後からお天気が悪くなるので明日午前中にムリュト島に移動することにした。

湾に錨泊しているのだが集金人が来て一泊200KN (約3500円) 取る。

今日は曇りで風が 10 ノット以上吹いているので半袖では寒いくらいだった。

夕食はマッシュルームのアヒージョ、トマトサラダ、酢でしめたイワシと玉ねぎを上に乗せた寿司飯を頂く。今日は二人で 0.5 リッターの白ワインにしておく。

寝るときには、錨泊の艇は 6 艇になっていた。

7月2日(日) Korcula~Mljet(Pomena) (1 2 NM) 晴れ後曇り 北北西順風

今夕前線の尻尾の通過があるようなので今日はムリュト島のポメナの入り江にあるレストラン棧橋に舫うことにする。

朝食後 08:20 にアンカーを揚げる。快晴の良いお天気だ。風も北寄りの風で 10 ノット前後吹いている。湾を抜けてから直ぐセーリングに移る。途中風が弱くなり速度も 4 ノットを切るようになったが、今日は目的地まで 1 2 NM の距離なのでノンビリセーリングを楽しむ。

12:10 にポメナのレストランが並んでいる店の岸壁にスターン着けする。レイドラインもある。

レストランが数軒並んでいてそれぞれが客寄せで手招きしてくれる。その中で“ADIO”と云う名のレストランに着ける。

早速このレストランでビールを飲んでから、艇でざるそばを頂く。蕎麦が美味しい。

船底のビルジが気になり見ていると洗面器一杯分位溜まっていた。原因が分からないので困る。

艇が着いてから暫くすると雲が出てきて一時的な小雨を降らす。天気雨みたいなものでその後青空が出たりする不規則な天気だ。今日も海水浴をしてからシャワーを浴びる。

PC の回復に努める。メールは出来る様になったがインターネットが上手くいかない。時間ばかり取られて困る。

隣にスロベニア人夫婦の艇が入ってきた。

夕食はレストランでシーフードサラダ、ムール貝、イカのグリルとシーフード・スパゲティを白ワインで食べる。ムール貝の身は小さかったがふっくらして新鮮だった。イカは今までこちらで食べた中で一番美味しかったと思うぐらい鮮度も新しくグリル具合も丁度良く美味であった。すべて鮮度が良くそして味付けも上手で気に入った。お値段は 60€、艇を係留して電気も使って係留代はフリーでのこの値段だった。

隣のテーブルがスロベニア夫妻で食後、お話をした。夫のトーマスさんは日本が好きで空手初段だそう。彼らはアドリア海を冬夏関係なくセーリングを楽しんでいるとの事だった。明日彼らは本島の Kobas に行くそう。彼らは艇をクロアチアのシベニックに置いてクロアチを熟知している。Kobas に Niko と云うシーフードの美味しいレストランがあるので其処に行くとの事だった。我々もこの際一緒に行って美味しいシーフードを食べることにした。

夜になると雷が遠くの空で光っていた。

7月3日（月）Mljet(Pomena)~Kobas(25NM) 晴れ 北10~20ノット

朝食後トーマスの艇が出港した後、我々も10:40に舳いを解く。前日は狭い海峡を遠慮して遠回りしたが、聞いたところ問題ないという事で其処を通る。

当初予報より弱い風だったが1時間程機帆走した後良い風になり帆走する。時折20ノットを越えるブローが吹き出したのでメインを1ポイントリーフする。

お昼はヒールしているので簡単なラーメンをビールで頂く。

15:10に小さな入り江のKobasにあるNikoレストランの棧橋にスターン着けする。

風が強く着岸を心配していたが丁度風が治まっていて助かった。既にトーマスの艇は入っていた。



島と違ってここは水が使えるので洗濯とデッキの水洗いをする。雨が降ると土が混じっているようでデッキが汚れる。

小さな村でレストランが海辺に散らばって4, 5件ある。海の水もきれいで素敵な係留地だ。

早速綺麗な海で泳ぎ、水浴びをする。気持ち良い。

夕食はNikoで食べる。

ムール貝や魚を入れてある生簀が棧橋にあり其処から料理の材料を出してくる。生簀から出してくるムール貝が美味しそうだ。

店の主が料理の説明に来る。お奨めのムール貝、グリルドブローンとグリルドフィッシュそして白ワイン注文する。すべて鮮度が良く素朴な味付けだったが美味しく食べる。

食後トーマスペアーとグラッパで夜を過ごす。とても知的なお二人で楽しい夜であった。

彼は空手一段だそうで日本が好きだが未だ一度も行ったことが無いとの事だった。日本に来たときは是非連絡するよう約束する。

風は相変わらず 20 ノット以上吹き続けているが艇の揺れは無い。

7月4日(火) Kobas~Cavtat (25NM) 快晴 北、北西 10~15 ノット

相変わらず北風が 15 ノット以上吹いている。艇で朝食を済ました後、Niko レストランでPCの回復を試みるが上手くいかない。諦める。

11:20 にトーマスとブランカにサヨナラをして舫いを解く。本島と島の間を湖面の様な海面を後ろからの風を受けてセーリングを楽しむ。途中水上飛行機が着水して離陸していく。いわゆるタッチ&ゴーだ。本島の方で煙が前上がっていて山火事の様でその消火のためのフライトの様だった。何回もタッチ&ゴーをする海面を横切るためタイミング調整に気を使った。

チャブタットの湾に入り明日出国するだけなのでカスタム岸壁に舫う。出国手続きをしてから錨泊して明朝モンテネグロへ行く予定をしていたが、係員が来て出国手続きをしたら直ぐクロアチアを出るか、明日であればカスタム岸壁以外に舫って明朝来るようにとの事だった。アシストが居ないので、波がある中でのスターン着けは難しいので湾内にアンカーを打つ。ところが夕方になって観光船が近くのブイに舫う。こちらはアンカーを打っている所以風が振れると観光船にぶつかるのでアンカーを揚げて再度岸壁に向かう。係員が居たので舫いをとってもらい岸壁に舫う。ところが顔見知りの係留の係員が申し訳なきそうに一泊 620KN(約 1 万 1000 円)と云う。6月には 290KN だったのが 3 倍近く値上がりだ。彼も親切に錨泊すればフリーですよと教えてくれる。ばかばかしいので岸壁を離れ、再度アンカーを別の場所に打つ。ここで 4 回目のアンカー打ちになった。この錨泊地の底は泥なのでアンカーの効きは良い。12mの深さに40mチェーンを伸ばした。

熱い体を海で冷やす。

夕食は純日本食で鮭、椎茸の佃煮、雑魚山椒、アジ味噌そして柚子茶漬けそして味噌汁でご飯を頂く。白ワインが結構合った。

7月5日(水) Cavtat~Budva(37NM)快晴 北よりの微風。

出国手続きは8時からという事なので07:40にカスタム用岸壁に舫い手続きをして08:20に舫いを解く。

クロアチアに来て4回目のチャブタットなので別れの寂しさを感じた。

ブダバ(Budva)も出入港管理が15時までという事なので急ぐ。幸い追風になり全行程機帆走で14:40に着きカスタム岸壁で舫って入国手続きをする。手続き終了後マリーナに

艇を移す。



ブダバは長いビーチ沿いにある町で大変活気のある大きなリゾート地だ。一面ビーチパラソルが立ち並び沢山の観光客、海水浴客で賑わっている。

マリーナのスタッフも親切で気持ち良い。オフィスではコーヒーと冷たいお水のサービスしてくれた。シャワーする前に泳ぐ。シャワーした後、海辺のバーで飲んでいると店員

が来て店のマスターが私の写真を取りたいが良いかと聞いてきた。勿論 OK と答えるとマスターが来て数枚撮ってビールをサービスしてくれた。その後又別のお客さんが来て一緒に写真を撮りたいと言って来たので勿論 OK した。結構地中海では髭が人気あるようだ。

港で新鮮なプローンを売っていたので 500g 9€で買う。安い。

夕暮れ時は仕入れたプローンを茹でて、それをチリソースにつけて食べる。美味しい。夕食はアボガドとトマトのサラダ、野菜サラダとソーセージのスープカレーを頂く。

静かな夜を過ごす。

明日はオールナイトのセーリングを楽しむ予定だ。月も丸くなり月明かりが楽しみだ。

7月6日(木) Budva~Vlora (120NM) 快晴 北西順風から微風

10 時前にカスタムの岸壁に艇を移す。昨晚入国して今朝出国の手続きだ。我々だけが出国艇と出国者だがこの手続きに時間が掛かる。ハーバーマスターがいてここで艇の出国手続きをしてそれが終わると、次に警察で我々の出国手続きをしてその後通関するのだが、書類を作るのに大層時間が掛かる。結局 30 分以上かかった。非常に非合理的な方法を取っている。

ここは出入国の手続きが出来るが場所によってはエージェントが手続きを代行してくれるが経費を取られる。

すべて終わって海に出るとほっとする。

お昼にキツネうどんを頂いた後良い風が斜め後ろから吹き出し快調なセーリングが始まる。夕方 8 時過ぎまで 7 時間程吹き続けてくれた。

6 ノット前後の速度で気持ち良いセーリングを楽しむ。

夕食はワンプレートにポテトサラダ、ポークグリルとご飯をのせて頂く。波が出てきてローリングするので手に持って食べられるようにワンプレートにしてくれた。今晚は徹夜なのでビールは控えた。

途中風が無くなり 5 時間程機走するが夜半に良い風が吹き出し月夜の晩のセーリングが楽しめた。月明かりは明るく夜の航海とは思えないほどだ。

朝方 4 時に月は沈み、その後薄暮が始まり 05:23 には雲一つない空に太陽が顔を出した。

順調に来たのでこのままだと早朝にマリーナ着になるので時間調整をして、朝方風が落ちて 3 ノット前後の速度になったがそのままセーリングする。

11:45 に Vlorë の Orikum マリーナに舫う。前回来て顔見知りになったマネジャーが舫いを取ってくれた。

ここでは彼がエージェントもやっていて出入国の手配をしてくれる。助かるが今回は入国して明日早朝出国なのだが出入りで 80€ の手続き料がとられる。

悦子の母が骨折して入院したとの連絡が娘から入ったので悦子は急遽帰国を早めることにしたのでコルフ島まで急いでいる。

日本語を勉強中のイタリア人女性（ココロさん）が可愛らしく声を掛けてくれる。名刺をあげて日本に来たら電話するよう話す。

夕食は前回も行ったお気に入りのレストラン “Tiku & Mato” でエクストラサラダ、ムール貝セラーズ風、グリルドカラマリ、フレッシュトマトのスパゲティを白ワインで食べ

今日もとても新鮮で美味しかった。特にムール貝の身はふっくらして今までで一番美味しい位だった。二人で 35€ 嬉しくなる。

帰りの夜道に歩道が無く危険なので懐中電灯を照らしながら帰る。

7 月 8 日（土）Vlore～Erikoussa(50NM)快晴 北微風

今日も典型的な夏のイオニア海の天候で良いお天気だ。風は午後から吹いてくるパターンになっている。

出国手続きは昨日終了しているのでそのまま出国だ。07:20に舳いを解く。出入り口が狭く浅いので用心深く昨日の入港経路をGPSの航跡を辿りながら出港する。

湾内を10NM程戻る形で北上した後、半島を越えて南下することになる。静かな湾内で

朝食に鮭と昆布のお握りを味噌汁で頂く。

半島を越えると良い風になり1時間程セーリングするがその後風が無くなり機走する。

お昼はラーメンをビールで頂く、セーリングでは食事は楽しみだ。

15:30にエリクーサ島の入り江にアンカーを打つ。砂地で遠浅で打ちやすい。既に20艇程アンカーを打っていた。

ここは前回もお邪魔したサンドロ、フランカの別荘があるので上陸して再会を祝す。

夕食の招待を受ける。彼の友人たちと同じテーブルでトマトの冷製、イエローテールのカルパッチョ、エビのリゾット、タラ料理をロゼワインで頂く。シェフのアマリーサは若い熱心で料理も上手ですべて美味しく頂いた。最後はクレームビュルレとグラッパだった。大満足で月光に照らされた海面をラバーボートで艇に戻る。

7月9日(日) Erikoussa 快晴 微風

起床してデッキに出る。今日も快晴、海の上での朝は最高だ。

今日は何もしない日だ。夕方前回と同様寿司の注文があり悦子が料理することになっている。

朝食に焼きおにぎりを味噌汁で頂いた後、昨日オールを海に落としてみたかったので泳で探す。透明度は良いのだがどこで落としたのか分からず見つけることは出来なかった。

お昼には冷やしうどんを頂き、読書と惰眠をむさぼった後ラバーボートで上陸して浜辺の店でお茶を飲みながらWIFIを使う。

夕方浜に上陸してサンドロ宅の厨房で悦子はシェフのアマリーサとコックの人達と一緒に稲荷寿司、巻鮭、握り寿司を料理する。お客さん入れて総勢11名だった。寿司はどちらかと云うと前菜でその後シェフの自慢のイタリア料理が出てきた。美味しいので総て頂いてお腹一杯になる。彼は辛丹波の純米酒を用意してくれた。

11時過ぎにラバーボートで艇に戻る。

7月10日(月) Erikoussa~Corfu(Gouvia) (28NM) 快晴、北微風

朝起きるとひどい霧で隣の艇が見えない。8時に朝食に招待されていたがこの状況では海に出れないので暫く待つと霧が薄くなり青空が出てきた。

上陸してフランカ宅で朝食をご馳走になる。悦子の母が骨折したとの連絡があったので日程を変更して悦子は早く帰国することになり航空券の日にちの変更を行う。又フランカがバースをGuvia Marinaに持っていて彼の艇はErikoussaに来ているので彼のバースを貸してくれることになった。グービアマリーナは一日72€するので大変助かる。

昨日一緒したミラノ近郊から来ていたご婦人方にもお別れのご挨拶をして 11:00 にアンカーを揚げる。砂地の底がしっかり見える綺麗な海だ。

穏やかな海を機走する。行き交う艇が多い。

16時前に Gouvia Marina に入りガソリンスタンドで給油する。今回はエンジンの回転を揚げなかったのと機帆走も多かったので燃費は 2L/H だった。

その後 C 31 のフランカのバースに 16:20 に舫う。ここのスタッフも親切だ。

艇を舫うとフランカが連絡しておいてくれたメカニックの奥さんが来ていてくれ明日午後にメカニックが来てくれ見てもらおう事にする。ビルジが入り海水なので精密検査をすることになっている。

アルバニアからギリシャに入ったので入国検査が必要だがここはマリーナに艇を停泊させて出来る。国によって呼び方が違うのだがここは艇の出入国の管理は Port Authority がやっているが 17 時迄やっているのが 16:30 に行ったらクローズという事で手続きが出来なかった。明日悦子が 11:20 コルフ発の便で帰るので入国手続き含めて忙しくなる。

夕食は明日悦子が帰国するので、艇の残りの惣菜をオムレツにして頂く。

7月11日(火) Corfu 快晴 微風

朝9時から Port Authority が開くとの事だったので、荷物を持って直ぐ出発できるように朝食をマリーナのコーヒーショップで食べる。11:20 コルフ島発の便なので艇の入国検査とその後本港に行って我々の入国検査をしなければいけないのでぎりぎりの時間になる。

出入国検査をする場所について特別な例が所どころありその一例が今回のギリシャ出入国のコルフ島だ。

通常は出入国管理できる港に入り、かつ決められた所定の位置(黄色のマークで表示してある)に繋留してそこで出入国の検査が終わり初めてマリーナに入る。ところがここは便宜を図ってくれてマリーナに入港してそこで艇の入国検査ができる。乗員に関しては艇の入港書類をもらって本港の出入港管理事務所に行ってパスポートにスタンプを押してもらう。

我々は昨日マリーナに入港したが昨日はハーバーマスターが居なく艇の入国が出来なくて今朝の入国になる。

時間が無いので早めに 8 時過ぎに Authority に行ってみると既に一人が開くのを待っている。

彼に確認すると 8:30 に開くとの事だったので私も並んで手続きするが一人 20 分以上かかり 9:20 に手続きが終わる。その足でタクシーに乗り本港に行く。(こういう時に限って 2 分おきに来るタクシーが来ない) 本港は 5 隻ほど大型客船が入港してロビーは人でいっぱい。いつもは裏口から入って手続きしていたのだが、表から出入国管理事務所に行くようにとの事だ。諦めて表から行って係員に説明すると待てとの事。こちらは 10 時近くになり心配だ。20 分ほど待つと案内してくれた。其処での審査は Port Authority から連絡が来

ていたのでスムーズに終わり、空港にタクシーで飛ばす。何とか出発の 50 分前に到着して無事悦子はアテネに飛び立っていった。

私はバスで旧市街地に出て I Pad の SIM カードを買って艇に戻る。お昼をマリーナの近くのタベルナでスパゲティ・ナポリターナを食べる。

午後ビルジの原因を調べに来てくれることになっていたので床板をはがして再検査して待つ。Sandro が連絡しておいてくれた Klouse の代理人が来てみてくれる。彼は直ぐ原因を見つけてくれた。

私はスタンチューブからの漏れはないと思っていたが、原因はそこでスタンチューブがある隔壁から直にビルジポンプの溜まる場所にパイプが引かれていて直接ビルジ溜まりにビルジが流れるようになっていた。従って見た目にはビルジが無いのでスタンチューブからの漏れでは無いと思っていたが、彼がスタンチューブ直接を触って濡れているのを教えてくれ、ここからだとは断定してくれた。

オズモシス (FRP が水の浸食によって劣化する現象) やキールの取り付け部分からのビルジでなくほっとした。

一応暫くビルジの流れを確認してスタンチューブの修理をお願いすることにした。

床のマットとデッキの水洗いをする。非常に暑い日なので途中自ら水をかぶりながら作業する。洗濯物も溜まったのでこのランドリーに出す。

一仕事した後冷やしてあったメロンを半分食べてからプールでひと泳ぎして体を冷やす。

夕暮れ時はコックピットで読書を楽しんで 9 時過ぎにマリーナのレストランに食事に行く。ここで偶然にも昨年シリア島のマレティモでお会いした Jean 夫妻に声を掛けられる。

私の方は覚えていなかったが Jean 夫妻は覚えていてくれた。偶然のめぐり逢いが結構ある。

7月12日(水) Corfu 快晴 微風

朝 Klouse に電話してスタンチューブの交換を依頼する。10 時にメカニックが来て交換を始めるがプロペラのシャフトについているジンクが邪魔してシャフトを必要な距離を動かさないのでダイバーに頼んでジンクをずらしてもらい取り付けを終わる。これでビルジの問題が解決した。

もう一つ給水ポンプが水を出すとき常に作動するので其処も見てもらおう。彼はかなり詳しいメカニックでこれも悪い部分を直ぐ見つけてくれた。アキュムレーターの中のゴム風船が破損していた。部品が無いので明日修理することになった。

ヨットは常に何か不都合が起こるがこれを一つ一つ直していくのが気持ち良い。

お昼はカレーライスで済ます。

午後は雑用をしたり買い物をしたりして過ごす。エリクーサ島から用事でコルフ島に来た Franca が寄ってくれる。いつエリクーサ島に来るのか催促してくれる。

夕方プールに行くと Jean さんの奥さんの Patricia さんが居て夕食を誘ってくれる。

21時前に行って Jean 夫妻と息子さんの4人であれこれ航海の話をしながら食事を楽しむ。これから行く方面の良い泊地を教えてもらったりする。結局ご馳走してもらった。

明日はコルフ島内を観光するとの事で明後日彼らが出港する前10時にお茶をご一緒することを約してお別れする。

7月13日(木) Corfu 快晴

10時に給水用アキュムレターの修理に来る約束なので待つ。その間チャンドラーに行っ
てラバーボートの空気入れの部品や舳いロープ、ゴムボートのオール、オールを止めるナ
ット、トイレの部品等々細々したものを購入する。

お昼はアマノフーズのカレーライスを食べる。

午後に給水アキュムレターの取り付けも終わり外注の修理は終わった。

船と陸との渡り用の梯子をパッセーラというがそれを使いやすくするため上からパッセ
ーラを釣っているロープにゴムを入れて調整したり、船内のシャットオフコックの動きを
スムーズにしたり諸々の作業をする。まだまだやることはあるのだが17時以降はゆっくり
することにして作業を中断してプールで泳いでから生ビーで喉を潤おす。

夕食はダルマチアン・生ハムで赤ワインを楽しんだ後、大盛の野菜サラダと茹でソーセ
ージを食べる。簡単な一人の食事だ。

今日は夕方になっても暑い。この二日はここでも大変暑い日だったようだ。

明日から少し暑さも和らぐとの事だ。

7月14日(金) Corfu 快晴

朝10時に Patricia の艇にコーヒーの招待を受ける。フランスから友人が来てこれから
Paxoi 島に行くそうだ。22日に戻ってくるという事なので再会を約す。とてもおっとりし
たご主人の Jean さんと素敵な夫婦だ。情報も色々頂く。

午前中はトイレの部品を新品と交換する。弁の所にカルシュームみたいな塊がびっしり
とついていて。毎年これは代えるべきだと思った。

ビルジがなくなりビルジポンプの音が聞こえ無くなって気持ち良い。調子悪くなってい
たボーズのスピーカーからも音が出るようになった。

次から次へとやることがあって結構忙しい。

お昼はお餅をフライパンで焼いてソーセージと野菜サラダで食べる。お昼のビールは控
えている。

午後コンピューターの初期化をするが Office のインストールが上手くいかず、時間だけ食
う。4、5時間苦戦したがインストール出来ず明日再挑戦することにした。夕食は PC と闘
いながらマリーナのバーで、簡単にクラブサンドウィッチで済ませます。

23時過ぎに諦めてシャワーを浴びて一杯飲んで寝る。

7月15日(土) Corfu 快晴

今日は何とかPCを直すことにする。幸いこちらのWINDショップが土曜でも空いていると聞いたので、バスで旧市街地にあるWINDショップに行く。親切な定員さんでインターネットを開通してくれた。

ついでにマイクロソフトのOfficeが上手くいかないのを再インストールをお店でやらせてもらう。少々時間を使ったうえインストール出来てない。諦めてバスで帰る。

グービアのスーパーで買い物をしてお昼を艇で食べる。ステーキ用のお肉も買った。ヒレがあるか聞いたがヒレ肉は置いてなかった。

午後は艇の前のバーでPCと闘うが成果無し。もう一度初期化する。

長い間PCばかりでは体に悪いので18時過ぎに止めてプールで泳いでからステーキを食べる。

食後再度バーに行き今度はOfficeの再インストールをする。インストール終了のメッセージが出たのだが、又動かず時間も23時過ぎになったので今日は諦めて艇に戻る。

7月16日(日) Corfu 晴れ後曇り一時雨

日曜日でチャーターヨットが出港していく。

夏休みのせいか小さなお子さんを連れている家族が多い。おじいちゃん、おばあちゃんも孫の面倒を見ながら楽しんでいる。

今日はコンピューターへのかかりきりは止めにする。とはいってもDellに電話してOfficeのインストールの不具合を話す。長電話になるので電話代もバカにならない。遠隔操作でやってもらうが結局マイクロソフトのソフトの問題という事で打ち切りになる。明日マイクロソフトに電話してみることにする。

お昼もいつものバーでバゲットをビールで食べる。こちらでは白髭に人気があり、白ひげをお客さんが誉めてくれた。悪い気分ではない。

ラバーボートの空気入れの送風口が上手くボートに合わなかったが工夫して合うようにして入れた。又パッセーラの取り付けのボルトを締める。艇の内側にナットがあるので結構大変な作業になる。

折角のんびり時間を楽しむつもりなので適当に休むことにする。小説ミレニアムが面白いので風に吹かれながら読む。素敵な時間だ。

プールで泳ぐ日課の運動をしてからおつまみを作りコックピットでやる。そのまま夕食は野菜サラダとビーフステーキを焼き食べる。

7月17日(火) Corfu 曇り

朝マイクロソフトにチャットでの問い合わせをするが現在取り扱い出来ないという事で連絡取れず。色々ウェブで調べてやってみてからOfficeを再インストールしたら出来た。

今まで同じことを何回もやったがうまく行かなかったのが何かの拍子で出来たという事

か？良くわからないが兎に角 PC が使えるようになったのでホットした。

パッセーラがガタガタするので木片を探してきてカットしてパッセーラの下に置くようにしてガタガタを止めるようにした。

悦子の居ない時の食事は仕入れた食材を順番に適当に食べることにしている。因みに今日のお昼はソーセージとマッシュルーム、ズッキーニを炒めて、茹で卵とお餅という具合だ。

この 3 日間はパソコンの回復で座っていることが多かったので自由時間を作ることにした。

ミレニアムを読み切った。面白い本だった。

日課の泳ぎは健康のためにも毎日続けている。

今晚は外食にする。馴染みのレストラン “Argo” でグreekサラダ、ムール貝、イワシのグリルを白ワインで楽しんだ。

帰りに女性から声を掛けられ白髪を誉めてくれた。フランス人で息子二人は日本語を勉強中だそうだ。感じ良いフランス人だった。

7月18日（火）Corfu 快晴

昨日と打って変わって気持ち良い青空だ。洗濯物もマリーナ内のランドリーに出す。このランドリーはセルフのシステムを使って洗濯屋さんがやってくれる。安くて便利だ。

明日か明後日からエリクーサ島に行く予定なので買い出しをする。と言っても Sandro のところで晩御飯をご馳走になるので大した買い物はしなかった。

これからの計画の詳細を練る。藤木さんが大型クルザーをフロリダで購入してエーゲ海に持ってきて 9 月にご一緒することになっている。その計画もする。

することも特になくのんびりした一日を快晴下過ごした。

夕食は “Argo” に今日も行き今日のスペシャル・骨付きポークのグリルとサラダを食べる。

なかなか上手く焼いていてソースも美味しく上出来だった。

7月19日（水）Corfu 快晴

Dell のパソコンのリカバリー後 WIND のインターネット接続ができなくなったので旧市街の WIND ショップにバスで行く。最初の女性の店員さんは不案内であったが先日応対してくれた男の店員さんは良く知っていて直ぐ接続してくれるようにしてくれた。

後は Outlook が通じないだけになったが、午後やってみるがうまく行かなかった。

ゴムボートのオールを失くしたので一本買う。

日課の泳ぎは続けている。

夕食は “Argo” でオラーダのグリルを食べる。

7月20日(木) Corfu~Erikoussa (28NM) 快晴 微風

朝10時に舳を解き静かな海面をシングルハンドでエリクーサ島に向かう。微風且つ迎え風だったので全行程機走になる。

15時に馴染みの錨泊地水深3.5mの砂地にアンカーを打つ。

ラバーボートを降ろして早速サンドロのところへ挨拶に行く。いつもとっても歓迎してくれる。

ビールとコーヒーをご馳走になり今晚もお邪魔することにする。

19時過ぎにお邪魔することにして艇に戻り泳いでから読書する。

19時過ぎにラバーボートで港の方に着けて行く。スパークリングワインをサンドロと飲みながらアピタイザーを摘まむ。お客さんが多い。6つのテーブルが埋まっていた。

食事はいつもフルコースで今日のメインはグルーパ(鯛の一種)だった。白ワインでサンドロ、フランカと一緒にご馳走になる。

サンドロには自分の兄弟だと言って色々のテーブルを案内してくれる。アテネから来た若い2人の女性は明日 CAVOK5 迄泳いでくることになった。

オーストリアから来たグループは2艇のカタマランで来ている。良くこの辺を知っていて教えてもらう。夜中12時少し前に艇に戻りぐっすり休む。安全な泊地での睡眠は気持ち良い。

7月21日(金) Erikoussa 快晴

今日もサンドロ宅にお世話になりながら錨泊を楽しむ。

何時もの様に10時前に陸に上がりサンドロ宅でコーヒーをご馳走になり、PCの充電とWIFIを使わせてもらう。

お昼にスパゲティポモドーロをご馳走になってから艇に戻り昼寝したりしながらのんびり過ごす。午後アテネからの女性2人泳いでくる。フルーツと柿の種を出す。感じの良い女性だ。サンドロの話では一人はギリシャでは名の通っている女優さんだそうだ。

水が綺麗なので泳ぐと気持ち良い。熱くなった体を冷やすのにも一番だ。

サンドロは自分で艇を動かすのが大変になったという事でスキッパーを雇うことにしていた。その彼が今日到着してサンドロと打合せをする。サンドロの艇は現在マリーナ建設中の港に繋留してある。

今晚もサンドロ宅で夕飯をご馳走になる。ホテルに宿泊している人たちと同じメニューなのでフルコースを毎日頂いている。サンドロ夫妻と同じテーブルで頂いているが二人とも時々ほかのテーブルに行って世間話や料理の話をしてとっても自然な形で社交している。

そしてイタリア人は人懐っこい。

何時もの様に23時過ぎに艇に戻る。月の無い夜で満天星空の中天の川がはっきり見えた。

7月22日(土) Erikoussa-Othoni-Erikoussa 快晴 微風

今日は新しく雇ったスキッパーのスピードがお客さんを乗せて隣のOthoni島に行くことになっている。私もサンドロとフランカと一緒に CAVOK5 で行く。彼らは自分の船に乗らず私の艇に乗ってホリデイだと言っているのんびり楽しんでくれた。

オトニ島に通称カリプソと呼んでいる海の色がクリスタルブルーでそこまで綺麗に見える海岸がある。人気のある場所で結構な数の艇がアンカーを打っている。



其処に我々もアンカーを打ち泳いでサンドロ艇でお昼を頂く。パルマハム、とブレッドをロゼワインで頂く。イタリアからのパルマハムという事で実に美味しく頂いた。

すっかり女優さんの Katerina とも親しくなり、アテネに来た折には一緒に食事をしようという事になった。

18時に戻ってきた。サンドロとフランカを陸に送った後、眠気が襲って来てそのままコクピットで転寝をする。

今日もご馳走になり 23時過ぎに艇に戻りぐっすり休む。

7月23日(日) Erikoussa 快晴

サンドロの息子家族がバルセロナから、そしてお嬢さんがミラノから来る日だ。

そしてデスティニー号の John,Eva が南イタリアの S.Maria Di Leuca からここに17時頃着くと連絡もあった。(デスティニー号は2013年に出会い3週間ほど一緒にイスタン

ブールからクルージングしたり、その後シチリアで2回ほど会ったりしている。)

朝上陸して今日帰る Katerina さんと彼女のお友達で同じ名前の Katerina さんにお別れの挨拶をする。

午後うとうとしているとデスティニー号が脇に着て到着を知らせてくれた。早速ボートを降ろし彼の艇に行き再会を祝す。今晚サンドロのところで晩御飯を一緒にすることにした。

夕食の前に庭に皆さん集まりグラス片手に自己紹介をしてから一杯楽しむ。

食事が終わってからサンドロ家族のテーブルに行ってチプロを頂く。チプロはクレタ島ではラキと呼んでいるがイタリアのグラッパと同じでブドウの絞りかすから作った蒸留酒だ。

サンドラ家のホスピタリティに John,Eva も大変喜んでくれた。

0時過ぎに艇に戻る。



(日の丸を掲げた CAVOK 5)

7月24日(月) Erikoussa~Corfu (28NM) 朝もや、晴れ 微風

朝上陸してさよならの挨拶する。とは言っても悦子たちが来たら又お邪魔することになっている。丁度サンドロの艇もグービアマリーナに今日行って一泊して帰る予定なので彼のバースが使えないかと思っていたがサンドロ艇のスキッパーのスピード自分の属している

会社がチャーターヨットもやっているなのでその空きバースにサンドロの艇を入れて CAVOK5 がバースが使えるようにしてくれた。

皆さん本当に親切だ。

John,Eva にも挨拶して 10 : 15 にアンカーを揚げる。朝方暫く霧が強く視界が悪かったので見張りに気を使った。

14 : 30 にグービアマリーナに舳いをとる。今度はマレティモで会ったジャンが待っていてくれプールサイドでビールをご馳走になり行き先について情報交換をする。彼の奥さんのパトリシアは昨日帰国した。

右舷のウインチがマニュアルで動かなくなったのでスピードに Klous に連絡してもらう。

スタンチューブ交換をしてもらった同じメカ来て分解してみるが中のピンが破損しているとの事で持ち帰り明日取り付けることになった。

ジャンに夕食を誘われていたが先にフランス艇のマディソンと夕食の約束をしていたので断った。

夕食は旧市街にある前にも言ったことのある “REX” に行く。